

渡りの点と線をつなぐ地域フォーラム

北極圏でのヘラシギとシギ・チドリ類の繁殖状況についてロシアの研究者エフゲニーさんとエレナさんから直接お話しが伺える貴重な機会です。

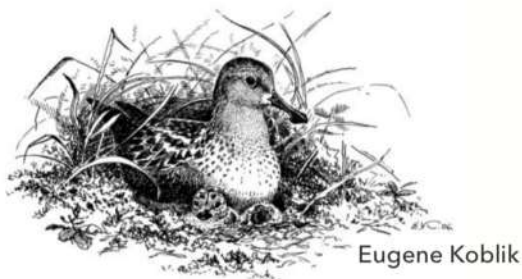
シギ・チドリ類の中でも、絶滅がもっとも危惧されている「ヘラシギ」はアジア大陸の東側を使い、アラスカの対岸、ロシアの北極圏東端のチュコト半島で繁殖し、毎年、東南アジア・インドまでの7,000 kmの渡りをします。個体数は多くありませんでしたが、2000年以降急速に減少して現在、世界の総個体数は300-600羽と推計されます。減少の状況はほかのシギ・チドリ類も同様です。

ラムサール・ネットワーク日本はヘラシギとシギ・チドリ類の保全活動を行なってきましたが、2016年に日本各地で保全活動を行う個人およびNGOと共にシギ・チドリ類の保全のための「シギ・チドリ類ステッピング・ストーンズ」というネットワークを立ち上げ、連携を強化して情報交換等を推進しています。

今回、ロシアのエフゲニー・シロエチコフスキーさんとエレナ・ラッポさんを渡り鳥が飛来する九州沿岸の干潟や河口を訪れる際、地域で保全活動をしている人たちと情報交換をするフォーラムを開催する運びとなりました。開催都市は、福岡市、八代市、佐賀市、中津市の4カ所です。

ロシアからは、ヘラシギの繁殖地での様子や現在の状況、その他のシギ・チドリ類の繁殖地での様子について伺いたいと思います。日本からは、渡りの途中の鳥の状況について、市民調査によるデータを両博士に示し、渡り経路全体を通じた保全につなげる機会となれば幸いです。

またとない機会ですので、お近くの会場に是非お越しください。



主催：ラムサール・ネットワーク日本

共催：シギ・チドリ類ステッピング・ストーンズ



エフゲニー・
シロエチ
コフスキー博士

生物学博士、ロシア天然資源省全ロシア研究所の北極圏生物多様性保全センター長、東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップヘラシギ特別部会議長。1990年モスクワ国立総合大学地理学部卒業後、ロシア科学アカデミー地球物理学研究所勤務20年。研究対象は鳥類、ロシア北極圏の生物地理、自然保護に取り組む。25期の極北僻地踏査を主催、北極圏で繁殖するシギ・チドリ類の越冬地東南アジア踏査参加5回。刊行された科学論文170以上。



エレナ・
ラッポ博士

地理学博士、ロシア科学アカデミー地理学研究所上席研究員。1991年モスクワ国立総合大学地理学部卒業後、地理学研究所に所属。研究テーマは北極圏の鳥類分布、マッピングに取り組む。ロシア北極圏（タイミル、ヤクーツク、チュコト、カムチャッカ）17回、熱帯の越冬地（オーストラリア、南米、アフリカ、東南アジア）5回の踏査に参加。刊行された科学論文は80にのぼる。